

食の祭典・台湾美食展

歐 元韻

台湾では「食」に関する二大展示会が毎年、盛大に開催されております。一つは、日本の方々にもよく知られている6月に行われた、台湾対外貿易発展協会主催の台北国際食品見本市（Food Taipei）です。台北国際食品見本市は業者向けの台湾で世界に誇る食の展示会で世界各地からのバイヤーが集うことで有名です。今年で第30回目の展示会ですが、毎年、日本貿易振興機構（ジェトロ）が出すジャパンパビリオンや台湾東元グループ（安心食品）が出すブースに多数の日系企業が出展し、日本商品のアピールに努めています。今回は1,031社が出展し、このうち、広島県内企業8社が台湾東元グループ（安心食品）ブースに出展していました。もう一つは、今年で第28回目となる7月に開催された台湾美食展（Food Expo）です。



【2019台北国際食品見本市 安心食品ブース】

＜台湾美食展とは＞

台湾美食展（Food Expo）は台湾観光協会が業界のプロモーション及びマーケティングに従事する多くの事業者とグルメ文化を支援することで交流の場を創設し、台湾グルメの価値創出並びに出展企業の商機拡大を目的に開催されているイベントです。政府機関、各自治体、ホテル、飲食業と官民一体となった台湾が誇る年に一度の美食の祭典です。

今回、私が所属する丸虎国際も台湾美食展で開催初となる日本美食館を運営される、日本国内及び台湾で交通広告や食関連事業等を展開する㈱エヌケービーのグループ会社である恩可比文創廣告股份有限公司からお誘いを受け、弊社が設立したブランド「三旺加旺（サンワンプラスワン）TJ Collection」名義で、台湾百年の老舗店のタレ、高知県の卵焼きと山口県のコシヒカリをマッチングさせた日台コラボ限定グルメ（焼き鳥丼など）、高知県と和歌山県の県産品を携えて本イベントに参加いたしました。

台湾美食展は業者向けの台湾国際食品見本市とは異なり、一般消費者が台湾や外国の美

食を求めて来場されるので、その勢いには圧倒されます。

また、私達のブース真向いには、北九州の有名うどんチェーン「資（すけ）さんうどん」が出展されており、美食展開催期間中には台湾進出を念頭に入れた無料試食会を実施されており、長蛇の列が出来上がっております。アンケートの実施、地元メディアへの取材対応、景品の配布と今後の海外展開が加速するのは間違いのないと思わせる盛況振りでした。

その他、台湾の日本酒専門販売業者、ベーカーリーショップ、台湾ハウス食品社などのブースが私達と同じ日本美食館内にございました。

日本美食館以外のブースでも、北海道札幌市、香川県、富山県滑川市は単独でブースを設け、地元のカレー有名店、ジュースバー（シャーベット）、ホタルイカの天ぷら等を出展して、その他、有名ホテル、外食産業有名店や台湾ならではの地元美食が味わえるコーナーも設けられており、まるで屋内の夜市を思わせる賑わい振りで、台湾の人達の胃袋を満たしていました。

また、有名シェフによる料理教室や今回のイメージキャラクターである日本のタレント、速水もこみち氏による舞台パフォーマンスも行われ、とにかくエンターテインメント性に溢れた「食」の一大イベントでした。

＜美食展に参加した感想＞

ちなみに、「三旺加旺（サンワンプラスワン）TJ Collection」として参加しました丸虎国際にとりましては、まさに台湾美食展というキッチンスタジオで戦ったという実感を強く抱いております。普段より培った商談会、物産展でのノウハウを基に微力ながら善戦を果たしたと手前ミソながら感じております。

今回は日本酒以外にも梅酒を取り扱い、価格的には日本酒よりも高価だったにも関わらず台湾の女性客より、飲みやすいと購入して頂けたのは何よりも収穫でした。また私達オリジナルのコラボ丼のアヒル味付け卵が日本人にも台湾人にも大好評でした。でも私達の商品で一番早く完売したのは卵焼き（出汁巻き卵）とその出汁でした。

台湾の各業界では以前より日本で流行った商品は、台湾でも大抵受け入れられると言われ続けてきましたが、私達も今回の経験を通じて日本人と台湾の人達の間にはもともと共通の好みがあることを改めて実感いたしました。台湾に紹介されていない未知の新しい商品が日本にはまだまだ沢山あるのにと強く思えた4日間でした。